平成２６年度事業計画（案）

１．H26年度の目標

わが国では、2005年から人口減少時代に突入した。岡崎市の人口はまだ辛うじて増えているが、生産人口（15歳以上65歳未満）はすでに5年前から減少に転じている。現在5人に1人が高齢者（65歳以上）で、その割合は年々増え続け、少子高齢化が深刻になってきている。

こうした社会構造の変化により、福祉、教育、雇用など、様々な問題が複雑に絡み合って進行し、今や“課題先進国”と呼ばれる我が国において、先鋭化する地域課題を解決するには、行政、市民、事業者が手を取り合い一丸となって対応していかねばならない。

岡崎まち育てセンター・りたは、市民活動・地域活動を促進する中間支援者として、各事業を通じて、岡崎市内各地にどのようなニーズ（課題）があり、それに対応してどのような施策や取り組み、またその担い手（シーズ）があるのか（もしくはないのか）を今一度把握したうえで、市民・市民団体、行政、事業者がそれぞれの強みを生かして連携しながら地域のニーズとシーズを結び付けていく「社会の紐帯」づくりを図る。

# ２．4つの主要テーマ

　上記の目標を達成するため、以下の4つの主要テーマに基づき事業を実施します。

## （１）景観

　りたは、景観法に定められた「景観整備機構」として、岡崎市内に潜在する地域資源（風景、建物、工芸、ひとの営みなど）を市民自らが再発見ならびに再認識し、わがまち意識を育む。

【該当事業】百景大撮影会ほか

## （２）防災

岡崎市とりたが締結した「災害時等における岡崎市地域交流センターの運営等に関する協定書（災害時協定）」をより具体的に咀嚼し、関係機関と連携しながら地域住民が自ら防災や減災を考える機会を提供することを通じて、普段の地域コミュニティのつながりを強化する。

【該当事業】防災イベント、防災講座ほか

## （３）福祉

まちの更新や少子高齢化に伴う福祉機能の低下に対して、社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会、学区福祉委員会など既存の担い手の目的と役割の関係性を整理し、地域の様々な活動と結びつける「ファシリテーター」として、より多くの市民や団体が参加できる地域福祉の在り方を模索する。

【該当事業】老人クラブ交流会、世代間交流イベントほか

（４）マッチング

様々な地域課題の解決に向けて、市民・市民団体、行政、事業者などの担い手が横断的に協働できるよう、ヒトとヒト、活動と活動、モノとモノ、情報などのつなぎ役「協働コーディネーター」の育成とその体制づくりを行い、市民活動や地域活動の活性化を目指す。

【該当事業】まちびとバンク／ものものバンク、市民公募型協働事業、地域活動交流会、まちフェス

# ３．スタッフの役割分担

地域交流センタースタッフを、それぞれ「市民活動支援担当」、「ボランティア担当」、「地域連携担当」、「広報担当」の4つの担当に振り分け、各センターに配属するりた正規職員（支援担当者）と緊密な連携のもと、各事業を推進する。

（１）公益活動の場づくり（市民活動支援担当）

市民の私益・共益的活動など、個々の活動をまちの課題、社会的課題の解決などと結びつけて、公益活動につなげていく場・機会を提供し、やりがいと出番を創出する。

（２）ボランティアの受け皿づくり（ボランティア担当）

「何かやりたい、始めたい」「役に立ちたい」という個人に対するボランティア活動の啓発と、市民活動・地域活動を促進するボランティアのマッチングを行う「ボランティアの受け皿づくり」を進める。

（３）学校融合人づくり（地域連携担当）

人々の想いや活動を増幅し、地域の教育機関や専門性を有する団体、個人との協働を促進し、未来のまちづくりの担い手を育成する。

（４）学区まちづくり（地域連携担当）

4つの地域交流センター（および市民活動センター）を軸として、地域の課題解決のための活動を支援しながら、地域の資源を活かして、個々の活動やアイディアをまち全体の取り組みにつなげ、学区を単位としてそれらを総動員する地域マネジメントの推進を目指す。

* 「広報担当」は、4つの事業方針を一元的に受発信し、センターの役割や機能の見える化、地域の魅力や課題の見える化を推進する。

# ４．組織体制

りた「市民活動支援チーム」は、なごみん・よりなん・やはぎかん・むらさきかん・市民活動センターと、支援拠点単位でグループを形成しています。各グループには、センター長1名、副センター長1名、スタッフ5名、出納1名を配置します。さらに、各センターには、正規職員を「支援担当者」として配置し、事業の推進やセンター間の調整、地域との連携強化を担う。

また、拠点が複数ある強みを活かし、運営上の工夫や支援ノウハウをセンター間で参照しお互いに高めあいながら業務の最適化を図りつつ、きめ細かい地域情報・活動の受発信と地域性豊かな施設運営に努める。

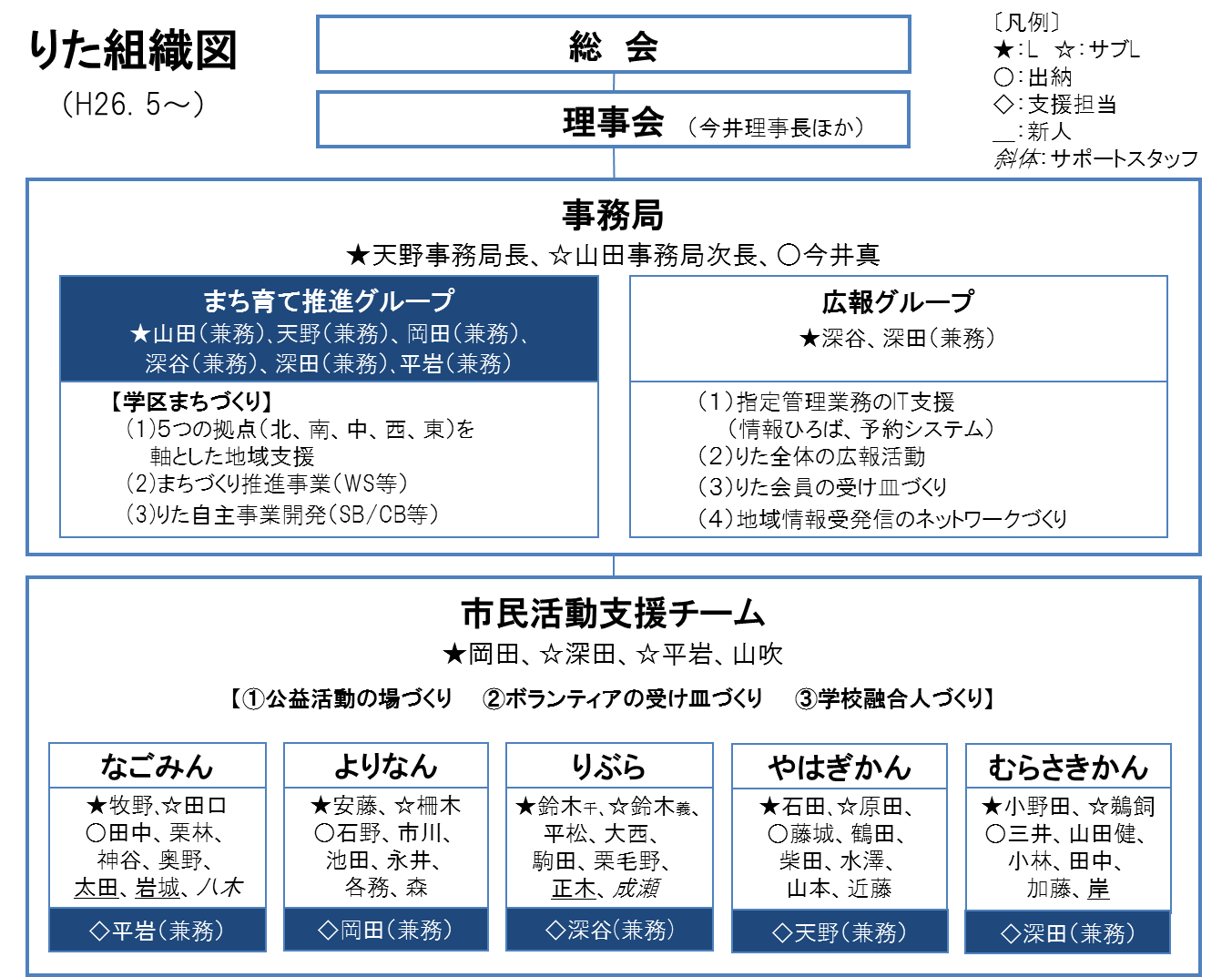
また、まち育て推進グループが主となり各センターと連携しながら、岡崎市指定の景観整備機構としての各業務（①良好な景観の形成に関する専門家の派遣、情報提供、相談その他の援助業務、②良好な景観の形成に関する調査研究業務、③良好な景観の形成を促進するために必要な業務）を推進する。

５．事業の実施に関する事項

（平成26年度　事業一覧）

|  |  |
| --- | --- |
| 定款項目 | 事業名 |
| ア　まち育てに関する相談や助言事業 | ア－１　りぶら市民活動センター運営事業 |
| イ　まち育てに関する学習機会の  提供事業 | イ－１　まち育てインターン受入事業 |
| ウ　まち育てに関する情報収集と  発信事業 | ウ－１　市民活動に関する情報受発信の仕組み構築事業 |
| エ　まち育ての専門家の育成と  派遣事業 | エ－１　まち育てコーディネーター養成事業  エ－２　まち育ての専門家派遣事業  エ－３　愛知県被災者支援センター運営支援事業 |
| オ　まち育てに関する調査研究、  政策提言事業 | オ－１　市制100周年事業検討事業  オ－２　SB/CB促進啓発事業  オ－３　地域ニーズ調査事業（松本町） |
| カ　市民と企業と行政をつなぐ  まち育て支援事業 | カー１　岡崎百景選定事業  カー２　空き店舗活用促進事業（中心市街地ほか） |
| キ　まち育てを支援する拠点施設の  管理運営事業 | キ－１,２,３,４　岡崎市地域交流センター  （北部・南部・西部・東部）指定管理事業 |

【平成26年度　りた組織図】



ア　まち育てに関する相談や助言事業

　ア－１　りぶら市民活動センター運営事業

（ア）事業内容

りぶら市民活動センターの運営事業（ボランティア・NPOに関する講座、情報ひろば利用促進に関する講座、公益活動促進のための事業）を実施し、市民活動および市民サポーター活動の支援を進める。また、りた独自のボランティアマッチングシステム「まちびとバンク」に加え「ものものバンク」も始動し、マッチング機能をさらに強化する。また、各地域交流センターとのネットワークの強化を進め、市民活動を公益活動につなげるために事業を展開する。

（イ）実施予定日時

平成26年4月1日から平成27年3月31日

（ウ）従事予定人数　7名（市民活動支援チームりぶら市民活動センター）

（エ）受益対象者の範囲及び予定人数　11,000名

（オ）事業費　800万円（岡崎市より受託）

イ　まち育てに関する学習機会の提供事業

　イ－１　まち育てインターン受入事業

　（ア）事業内容

自治体職員や大学生のインターン受け入れを「まち学習を提供する機会」と捉え、受講者に充実した学びを届けると共に、りた自主事業（委託事業以外）の質を高める重要な人材として位置づけ、「地域（まち）の魅力を発掘し、その地域に住む人々に気づきを与えることの必要性を学ぶ」ことを展開する。

（イ）実施予定日時　通年

（ウ）主な従事予定者　10名（各支援担当者、センター長）

（エ）受益対象者の予定人数　10～12名

ウ　まち育てに関する情報収集と発信事業

ウー１　市民活動に関する情報受発信の仕組み構築事業

（ア）事業内容

「岡崎における市民活動情報の仕組みのあり方」について継続して模索する。

市民活動情報やボランティア情報、NPO支援情報の一元化、おかざき市民活動情報ひろばやSNSによる配信ツールの整備等を実施する。また、紙媒体における情報展開にも着手し、りたの事業の可視化と共有を図る。

（イ）実施予定日時

　　　　平成26年4月1日から平成27年3月31日

（ウ）従事者予定人数　1名（深谷）

（エ）受益対象者の範囲及び予定人数　3,000名

（オ）事業費60万（一般管理費より充当）

エ　まち育ての専門家の育成と派遣事業

エー１　まち育てコーディネーター育成事業

（ア）事業内容

りた新規採用職員並びに既存を対象とし、市民活動、まちづくりの支援者として従事できるよう研修を行う。また、3ヶ月に1回、既存スタッフを対象とした「スタッフ交流会」を開催し、ノウハウの共有や事業推進を進める。

（イ）実施予定日時

　　　・第12期　りた職員研修：6月

　　　・りたスタッフ交流会（四半期の1度開催）

（ウ）従事者予定人数　6名（事務局、各支援担当者）

（エ）受益対象者の範囲及び予定人数　50名

（オ）事業費　60万（一般管理費より充当）

エー２　まち育ての専門家派遣事業

（ア）事業内容

岡崎市各種委員会（岡崎市景観審議会、岡崎市活性化本部リバーフロント部会、岡崎市地域福祉計画推進委員会など）や各種大学（愛知産業大学、愛知学泉大学など）におけるまちづくり関する講義、愛知県各種会議（愛知県NPOと行政の実務者会議、あいちコミュニティファンドの推進等）への専門家の派遣やNPOネットワーク会議への参加を通じて岡崎のまちづくりを推進するとともに、NPO業界全体の支援体制の仕組み作りに努める。

（イ）実施予定日時　通年

（ウ）従事者予定人数　2名（天野、山田）

（エ）受益対象者の範囲及び予定人数　1,000名

（オ）事業費　30万（各事業収入）

エー３　東日本被災地支援事業

（ア）事業内容

県内に避難してきている被災者約1,250名の方々の支援を担う「愛知県被災者支援センター」の運営事業へ継続して職員を出向する。今年度においては、県内全避難者への戸別訪問を通じて、市町村や各種専門家と連携をした見守りネットワークの構築を図る。

（イ）実施予定時期

　　　　平成26年5月～平成27年3月

（ウ）従事者予定人数　１名（山田）

（エ）受益対象者の範囲及び予定人数　県外避難者1,200名

（オ）事業費　150万（愛知県より受託）

オ　まち育てに関する調査研究、政策提言事業

オ－１　市制100周年事業検討事業

（ア）事業内容

平成28年に迎える市制100周年記念事業の一環として、学区単位で作成する「（仮称）エリアブック」の構成とつくり方（情報の集め方、執筆、編集、レイアウトなど）を検討し、全学区で応用可能なひな形案を作成する。

（イ）実施予定日時　平成26年6月～平成27年1月

（ウ）従事者予定者　天野、深田

（エ）受益対象者の範囲及び予定人数　1,000名

（オ）事業費　50万円（岡崎市より受託予定）

オ－２　ＳＢ/ＣＢ促進啓発事業

（ア）事業内容

SB/CB振興ビジョンに基づき、地域の課題解決に取り組む人材の育成、事業の戦略づくりや創出促進を通じて、持続可能な事業化を図る。また、これまでの蓄積をもとに、具体的事業における支援体制の構築やコミュニケーションツールの開発を実施する。

（イ）実施予定日時　平成26年7月～平成27年3月

（ウ）従事者予定者　2名（山田、新規雇用者）

（エ）受益対象者の範囲及び予定人数　2,000名

（オ）事業費　230万円（岡崎市より受託予定）

オ－３　高齢者の暮らしのニーズとリズムの深堀り調査事業（松本町）

（ア）事業内容

少子高齢化が進む松本町において、お年寄りの暮らしのニーズに応じたコミュニティ・ビジネスのあり方を模索し、同様の課題を有する地域への横展開を図るための基礎調査を行う。

（イ）実施予定日時　平成26年7月～平成26年10月

（ウ）従事者予定者　2名（天野、山田）

（エ）受益対象者の範囲及び予定人数　500名

（オ）事業費　10万円（あいちコミュニティ財団より助成予定）

カ　市民と企業と行政をつなぐまち育て支援事業

## カ－１　岡崎百景選定事業

（ア）事業内容

100年後の未来に伝え遺したい「ふるさとの景観」を、市民の手で「見つけ」「つなげ」「広め」「育て」ていく「岡崎百景」を選定。市民が参加し、一緒につくりあげていく事業を通じて、岡崎らしい景観を選定し、まちに対する市民の誇りと愛着を醸成し、これからのまちづくりを考える機会としていく。

（イ）実施予定日時　　平成26年6月～平成27年3月

（ウ）従事者予定人数　山田、天野　2名

（エ）受益対象者の範囲及び予定人数　37万人

（オ）事業費　200万円（岡崎より受託予定）

## カ－２　空き店舗活用促進事業（中心市街地ほか）

（ア）事業内容

本事業は、株式会社まちづくり岡崎と連携し、康生地区界隈の中心市街地の価値向上と再生をめざし、出店者誘致ならびに空き店舗活用を促進における全体コーディネートを担う。Ｈ26年度は、マッチング機能の確立（情報プラットホームの整備）と活用モデルの事業化進める。

（イ）実施予定日時　　平成26年7月～平成27年3月

（ウ）従事者予定人数　 1名（山田）

（エ）受益対象者の範囲及び予定人数　10万人

（オ）事業費　100万円（㈱まちづくり岡崎より受託予定）

キ　まち育てを支援する拠点施設の管理運営事業

キ－１,２,３,４　岡崎市地域交流センター“なごみん”“よりなん”“やはぎかん” “むらさきかん”指定管理者事業

（ア）事業内容

昨年度に引き続き、地域交流センターの果たすべき、人、団体、歴史・文化、自然環境等の地域資源や地域特性を活かした「その地域だからこそできる施設運営」、第二に、センターが有する市民団体・地域団体とのつながりや情報受発信力を活かした「センターがあるからこそできる地域づくり支援」という役割を最大限活かし、①ボランティア活動の啓発とマッチングを推進する「ボランティアの受け皿づくり」と、②センター事業を通じて、市民の私益・共益的活動を公益活動につなげていく場・機会を提供する「公益活動の場づくり」、③地域の教育機関等との協働を通じて、未来のまちづくりの担い手を育成する「学校融合人づくり」を行うことで、地域住民、市民活動団体、学校、企業等の多様な主体が連携・協働しながらまちの課題解決を担う「新しい公共の実現」を目指す。また、各地域のニーズや課題に応じて、「景観」「福祉」「防災」「マッチング」の4つの主要テーマに沿った事業展開を行う。

（イ）実施予定日時

平成26年4月1日～平成27年3月31日

（ウ）従事者

（市民活動支援チームなごみん）

牧野和弘（センター長）、田口芳直（副センター長）、栗林延美、

田中雅子（出納）、神谷郁子、奥野淳子、太田正昭、岩城裕子、

支援担当：平岩亮人

（市民活動支援チームよりなん）

安藤惠（センター長）、柵木由利江（副センター長）、市川敏幸、

石野利恵（出納）、池田盛彦、永井実子、各務育子、 森邦夫

支援担当：岡田貴浩

（市民活動支援チームやはぎかん）

石田浩美（センター長）、原田照夫（副センター長）、鶴田義秋、

藤城信子（出納）、柴田一久、水澤智子、山本和裕、 近藤直美

支援担当：天野裕　　営繕スタッフ：山吹省三

（市民活動支援チームむらさきかん）

小野田稔（センター長）、鵜飼芳治（副センター長）、山田健治、

三井由美（出納）、小林日出子、田中芳治、加藤利江、岸英樹

支援担当：深田賢之

（エ）受益対象者の範囲及び予定人数

北部：約 68,000名（平成25年度実績より）

南部：約107,000名（平成25年度実績より）

西部：約 85,000名（平成25年度実績より）

東部：約 94,000名（平成25年度実績より）

　（オ）事業費

　　　　9,237万円（岡崎市より受託）

【全館共通事項】

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 仕様項目 | 事業名 | 目的及び概要 | 時期 |
| A-1.  市民活動に関する情報の収集及び提供 | 市民活動並びに市民活動を支援及び促進する機関に関する各種資料の収集、整備、掲示、配架及び配布 | 市民活動のポスター・チラシの掲示・配架 | 市民活動団体ＰＲのためのポスターおよびチラシの掲示、配架を行い市民活動への関心を促す。 | 随時 |
| 百景大撮影会 | 潜在する地域資源の発掘を、市民自らが再発見ならびに再認識し、わがまち意識の醸成を図る。 | 1回  ／年 |
| 市民活動団体の情報の登録及び管理 | 市民活動団体登録の受付、市民活動情報ひろばの管理 | 登録申請や登録変更などの支援(申請書類の書き方助言など)、書き込み内容審査を行う。 | 随時 |
| A-2.  市民活動に関する相談 | 窓口または電話等による市民活動に関する相談及び情報提供 | 市民活動相談、紹介、アドバイス、施設利用団体の活動内容把握 | 活動希望者と活動団体のマッチング（活動団体紹介、活動内容紹介）を行う。 | 随時 |
| 市民活動団体の設立または運営に関する相談及び情報提供 | 市民活動団体設立手順の説明や設立後の活動および運営のアドバイスを行う。 | 随時 |
| A-3.  市民活動及び施設に関する広報活動 | センター情報誌の発行及び配布 | 情報誌  ｢なごみん｣｢よりなん｣｢やはぎかん｣の発行 | センター事業の紹介や施設利用団体の活動PR、地域の情報収集による地域の魅力の提供を行う。 | 毎月発行 |
| センターホームページの作成、維持及び更新 | 地域交流センター  ホームページ運営事業 | 不特定多数に対する情報開示として、事業の広報や事業実施の報告を行う。 | 随時 |
| メールマガジンの配信 | 市民活動団体への情報発信事業 | 配信を希望する市民活動団体に対し市民活動に関する情報等を地域交流センターより発信する。 | 5回  ／年 |
| A-4.  市民活動に関する講座等の実施 | 市民活動団体紹介ホームページの利用促進に関する講座 | 情報ひろば活用講座 | 「おかざき市民活動情報ひろば」の活用方法を学ぶ場（個別指導）を設け、利用を促進させる。 | 1回  ／年 |
| A-5.  市民活動啓発事業の実施 | 市民活動団体相互のネットワークづくりの促進 | 岡崎まち育てフェスタ | 既存の市民活動団体、潜在的な公益活動の担い手を対象として、地域の課題解決や、社会に必要なサービスを提供する公益的な活動の促進を図る。 | 3月 |
| A-6.  その他 | 社会貢献活動（ボランティア活動）の啓発 | まちびとバンク（ボランティアマッチングシステム）運営事業 | ボランティアをしたい方とボランティア（仲間）を待っている団体をつなぎ、ボランティア活動の促進および団体の活動の活性化を支援する。 | 随時 |

【北部地域交流センター（なごみん）個別事業】

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 仕様項目 | 事業名 | 目的及び概要 | 時期 |
| B-1.  市民活動に関する講座等の実施 | ボランティア及びＮＰＯに関する講座 | なごみんカレッジ | なごみんの空き部屋を活用して、市民活動団体には公益活動の機会を、市民には様々な学びの機会を提供する。 | 通年 |
| B-2.  市民活動啓発事業の実施 | 市民活動団体相互のネットワークづくりの促進 | 北部地域活動報告交流会 | 地域のために活動している団体に発表の場を提供し、団体同士や市民とのつながりを創出する。 | 11月 |
| 市民活動啓発イベントの開催 | なごみんフェスタ2014 | 市民活動団体が中心となり、ステージ発表･体験･展示等を行い、活動の促進や会員の増加につなげる。北部地域の魅力発信も行う。 | 4月 |
| なごみん横丁 | 子どもたちが自ら考え、まちを創り出すことで創造･協働する力を養い、まちづくりの担い手を育成する。また、地域との相互協力やボランティアの活動促進を図る。 | 8月 |
| B-3.  市民参加による施設運営 | 施設ボランティア、  環境演出 | 花咲ボランティア | 地域ボランティアが中心となった敷地内の花壇整備や施設内の環境整備の活動をマネジメントし、地域ボランティアの受皿としての役割を担う。 | 通年 |
| ふれあいイベント | ボランティアによる読み聞かせ、作品展示および作者の情報提供などを行い、活動促進の支援や来館者との交流の機会を提供する。 | 通年 |
| B-4.  その他 | その他 | なごみん防災講座 | 市民に対して、防災･減災意識の啓発を行い、災害時に使える知識を蓄積する。 | 9月 |
| 岩津ゼミ全体支援事業 | 岩津ゼミ(地域の商店等の魅力を発信する事業)の広報協力や運営相談などの後方支援を行う。また、なごみん講座として公益的な内容の講座を実施する。 | 6月  10月 |

【南部地域交流センター（よりなん）個別事業】

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 仕様項目 | 事業名 | 目的及び概要 | 時期 |
| B-1.  市民活動に関する講座等の実施 | ボランティア及びＮＰＯに関する講座 | 防災フェア | 防災意識の啓蒙のため、地域と共催して、体験を中心とした災害に対する学びの場を作り出し、防災ボランティア活動の促進を図る。 | 6月 |
| B-2.  市民活動啓発事業の実施 | 市民活動団体相互のネットワークづくりの促進 | 夏休み昔の遊び体験フェスタ | 地域のボランティアや高校生ボランティアとともに、地域の子ども達に昔の遊びを通じての世代間交流の場を提供し、顔の見える地域づくりを促進させる。 | 7月 |
| 市民活動啓発イベントの開催 | よりなん感謝祭 | 企画や準備から各出演団体に参画してもらうことにより、発表･展示･体験だけでなく、団体の活動を活性化させるための自発的な取組みを創造する場を提供する。 | 10月 |
| よりなんクリスマス会 | 民生委員が中心となった団体と合同で開催し、南部地域の子育て支援への取組みの促進を図る。 | 12月 |
| B-3.  市民参加による施設運営 | 施設ボランティア、  環境演出 | よりなんサロン | 自発的な出演者を募り、ミニコンサート、読み聞かせ、地域交流サロンを出演者中心に実施する。 | 通年 |
| よりなん彩飾 | 施設利用者が和める雰囲気づくりの一環として、地域の方およびボランティアと共に季節に応じた館内装飾を行う。 | 通年 |
| B-4.  その他 | その他 | 上地学区親子夏祭りへの参加 | 地域住民が主催する夏祭りへ参画することで、地域との関係づくりを行うと共に、ボランティアが地域に貢献する機会を創出する。 | 8月 |
| 上地学区老人クラブ交流会 | 老人クラブの活動を支援するとともに、福祉分野での地域問題解決のための学びの場を提供し、自らが行動する意識を啓発する。 | 2月 |

【西部地域交流センター（やはぎかん）個別事業】

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 仕様項目 | 事業名 | 目的及び概要 | 時期 |
| B-1.  市民活動に関する講座等の実施 | ボランティア及びＮＰＯに関する講座 | やはぎ防災講座 | 矢作地区の特性と水害のリスクを知り、事前にできること、災害時にすべきことを学び、地域住民、地域団体、市民団体の連携関係を強化する。 | 6月 |
| B-2.  市民活動啓発事業の実施 | 市民活動団体相互のネットワークづくりの促進 | 子どもの街 | 親子を対象として、市民活動団体や地域団体、ボランティアが講師となり、世代を超えて受け継ぎたい知恵や技の継承と交流を促す。 | 8月 |
| 市民活動啓発イベントの開催 | 7周年春まつり | 企画や事前準備から団体に参画してもらうことにより、発表･展示･体験だけでなく、団体の活動を広く知ってもらい、活性化させるための自発的な取組みを創造する場を提供する。 | 3月 |
| 防災学び合い交流会 | 各学区の防災訓練･避難訓練の実態を把握した上で、各地域の防災活動や課題に関する情報交換を行い、行政、市民団体の助言を仰ぎながら、地域防災力を高める。 | 1月 |
| 花のとう協賛イベント | 地域の伝統行事に協賛し、地域ならではの文化や慣習の伝承と、魅力の発見を通じてまちの愛着を育む。 | 5月 |
| B-3.  市民参加による施設運営 | 施設ボランティア、  環境演出 | ふれあいひろば | フリースペースを主体的な団体(読み聞かせや楽器演奏)に活用してもらうことで、団体にとっては活動の場を提供し、利用者にとっては憩いのひと時を提供する。 | 通年 |
| やはぎかんサポーター | 社会貢献を志すボランティアの受け皿として、施設内の花壇や環境整備、事業の運営を支援するサポーターの発掘、育成を行う。 | 通年 |
| B-4.  その他 | その他 | やはぎお宝マップ | 矢作の歴史･文化や地域活動･市民活動･まちなみなどの情報を収集し「やはぎお宝マップ」としてまとめ、矢作の魅力の啓発を行う。 | 通年 |

【東部地域交流センター（むらさきかん）個別事業】

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 仕様項目 | 事業名 | 目的及び概要 | 時期 |
| B-1.  市民活動に関する講座等の実施 | ボランティア及びＮＰＯに関する講座 | 防災講座 | 防災意識啓蒙のため、災害に対する講話や体験を盛り込んだ学びの場をつくり、地域防災活動の促進を図る。 | 2月 |
| B-2.  市民活動啓発事業の実施 | 市民活動団体相互のネットワークづくりの促進 | 東部地域活動報告交流会 | 岡崎市東部で、地域のために活動している市民活動団体を中心に参加いただき、活動報告と交流の場を提供する。 | 12月 |
| 市民活動啓発イベントの開催 | むらさきかんフェスタ | 主にむらさききかんで活動している市民活動団体の活動発表の場として位置付け、市民活動の促進と啓発を図る。 | 9月 |
| むらさき麦まつり | 藤川まちづくり協議会や道の駅、愛産大、藤川小と連携し、地元藤川の活性化と各団体相互の連携を促進する。 | 5月 |
| B-3.  市民参加による施設運営 | 施設ボランティア、  環境演出 | ふれあいひろば | 市民活動団体やボランティアによる音楽遊びや読み聞かせを行い、ボランティア活動の促進と、むらさきかん利用者との交流を図る。 | 通年 |
| 館内飾りつけ | 市民活動団体やボランティアで飾りつけを行い、ボランティア活動や地域との交流を促進する。 | 通年 |
| むらさき麦栽培 | 藤川のシンボルであるむらさき麦の栽培を地域協働で行う。 | 通年 |
| B-4.  その他 | その他 | 藤川･竜谷支援事業 | 地域交流センターができたからこその地域貢献として、藤川と竜谷のまちづくり支援を行う。藤川は米屋運営をはじめとする地域活性支援、竜谷は福祉ネットワークの形成支援を行う。 | 通年 |
| 生活相談事業 | 高齢者の一人暮らしや介護、生活困窮、家庭内暴力など、様々な生活相談の窓口を担い、専門機関・施設への橋渡しを行う。 | 通年 |